

バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	2nd Mycokey International Conference – Integrated Solutions for Mycotoxin Management
演題名	Studies on the mode of action of dioctatin that inhibits aflatoxin production of Aspergillus species
発表者	○ <u>Tomohiro Furukawa</u> 1), Hidekazu Katayama2), Kohji Murase3), Rumi Negishi4), Michio Suzuki3), Seiji Takayama3), <u>Shohei Sakuda</u> 1) 1) 帝京大・理工・バイオ, 2) 東海大・工・生化, 3) 東京大院・農生科・応生化, 4) 東京大・分生研【生理活性利用学研究室】
内容	中国・武漢で開催された2nd Mycokey International Conference (https://sciforum.net/conference/2nd%20Mycokey) にて、カビ毒の生産抑制物質の作用メカニズムについて、ケミカルバイオロジー、プロテオミクス的手法を駆使して解析した研究成果を発表しました。本発表においては、特に薬剤結合タンパク質の同定について高い評価を受け、60題の口頭発表から優れた発表を行った5題に選定され、Best Presentation Awardを受賞しました。本研究の一部は、農林水産省委託プロジェクト研究「カビ毒の動態解明と産生低減技術の開発(カビ毒動態)」として行われたものであり、東海大学、東京大学との共同研究として進められています。
関連画像	